

# 幼稚園教育を充実させるための家庭との連携

～園行事を通して～

## 目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究仮説	2
III	研究内容	2
1	本園の教育目標と教育要領との関連	2
2	本園の教育目標とテーマとの関連	3
3	家庭との連携	4
(1)	連携の意義	4
(2)	家庭との連携を図るための基本的な考え方	4
(3)	本園の取り組み	6
4	家庭との連携を深める工夫	7
(1)	家庭との連携を深める行事の年間計画	7
(2)	家庭との連携を深める園行事の事例	8
①	教師と父母の相互理解を深める工夫をした事例	8
②	人とかかわる力を身につける工夫をした事例	11
③	野菜嫌いをなくすおやつ工夫をした事例	12
④	幼稚園教育への理解を深める工夫をした事例	14
IV	研究の成果と今後の課題	21
1	研究の成果	21
2	今後の課題	21
	〈引用文献〉	22

浦添市立当山幼稚園副園長

金城文子

# 幼稚園教育を充実させるための家庭との連携

～園行事を通して～

浦添市立当山幼稚園 副園長 金城文子

## I テーマ設定の理由

幼稚園生活は、幼児が家庭生活から離れて同年令の幼児や教師と一緒に過ごす集団生活である。入園以前の幼児はそれぞれの家庭で両親の愛情をたっぷり注がれる中で、大人を模倣したり幼児を取り巻くさまざまな環境からの影響を受けて成長し発達している。

ところが中には幼稚園に入園して

- (1) 「幼稚園へ行きたくない」となかなか親から離れられない。
- (2) 一人遊びが多くなかなか友達となじめない。
- (3) 食べ物の好き嫌いが多く、わがママが目立つ。
- (4) 人の話を聞いたり、自分の考えを人前で話したりすることがうまくできない。
- (5) 遊んだ後の片付けができない。

など基本的な生活習慣がまだ身につけていない子が見られる。

それは幼児一人一人の家庭環境、生育歴、発達の遅速などのあらわれでもあるが、情報化、高齢化、共働き、核家族化、少子化傾向など幼児を取り巻く社会環境や家庭環境が著しく変化したため

- (1) 親の愛情が様々な形であらわれ過保護現象が見られる。
- (2) 少子化傾向のため人と人とのかかわりが少ない。
- (3) 核家族化や住宅事情（アパート・マンション）などで、地域との関わりが薄くなっている。
- (4) 母親の育児に関する知識や経験不足からの戸惑いがある。

などのことと関連があるといわれている。

このようなことから、幼稚園生活を一人一人の幼児にとって安心して楽しく過ごし充実したものにするためには、幼児一人一人を個性的な存在として理解し、それぞれの長所を伸ばしてやる支援活動を十分に行わなければならないが、さらに幼稚園教育に対する父母の理解と協力を得て教師と父母が連携して車の両輪のように幼稚園教育を推進する必要がある。

そこで、教師と父母の連携（幼家連携）の具体的場面である園行事を

- (1) 相互理解を深める工夫
- (2) 人と関わる力を身につける工夫
- (3) 食べ物の好き嫌いをなくす工夫
- (4) 幼稚園教育への理解を深める工夫

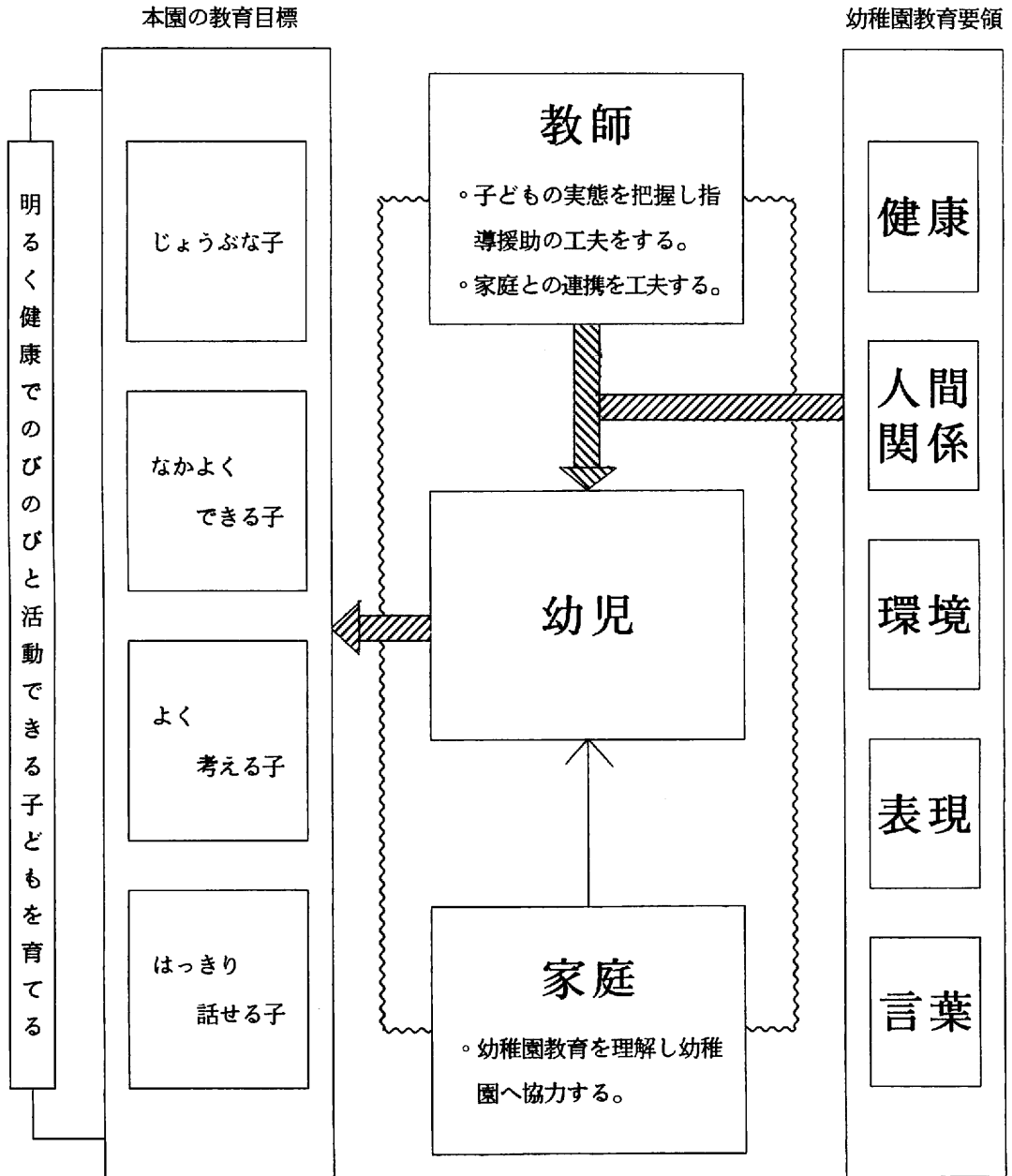
の観点で見直し、創意工夫を加えて、幼児が「幼稚園は楽しい」と言って園生活を満喫し、成長発達をとげるような園行事をつくりだすための連携のあり方を追究するため本テーマを設定した。

## II 研究の仮説

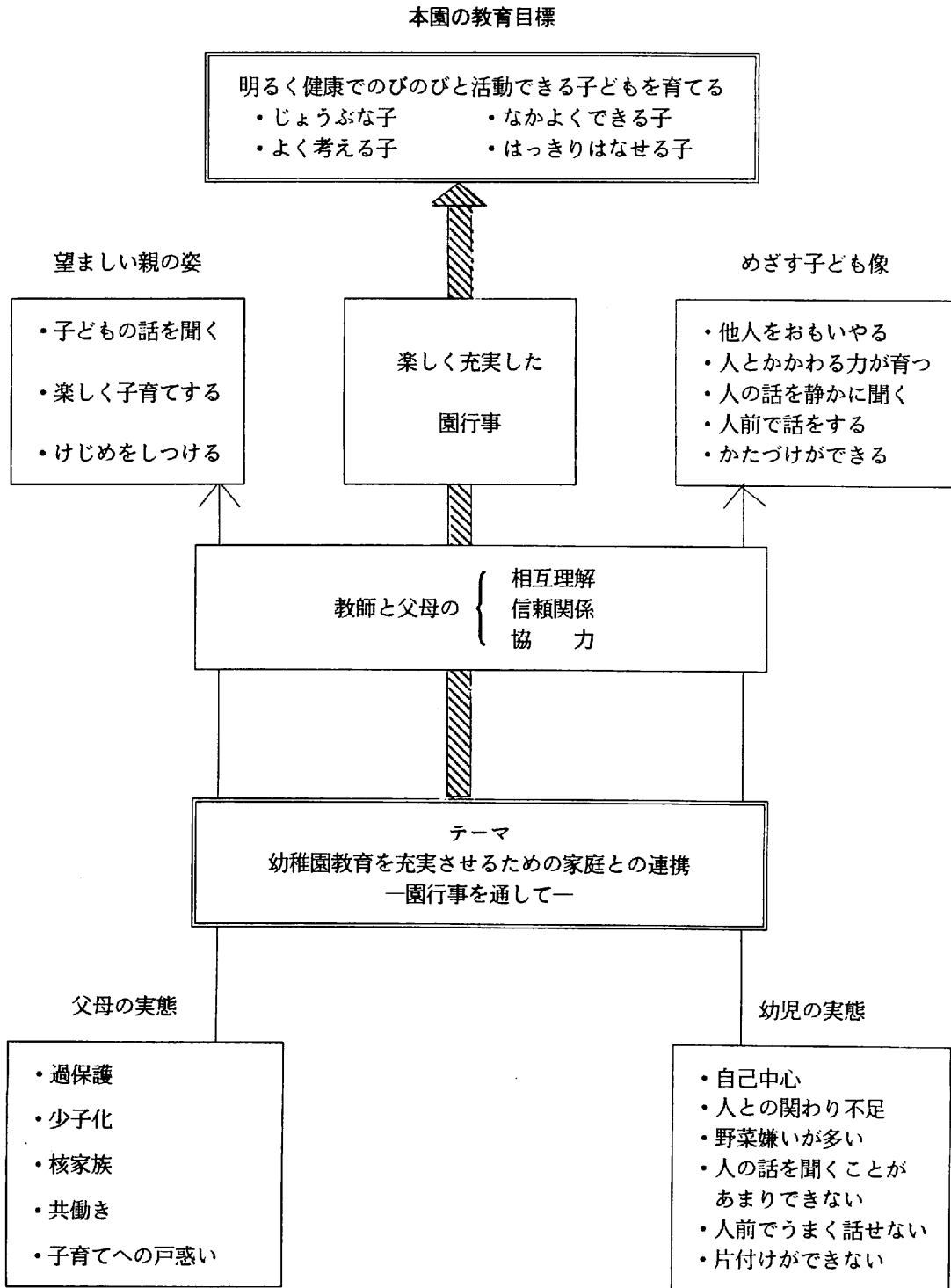
教師と父母が連携を密にして園の教育活動や諸行事を計画・実施することによって父母の幼稚園教育に対する理解が深まるとともに教師と父母の信頼関係が増し、幼稚園教育をいっそう充実させることができるであろう。

## III 研究内容

### 1 本園の教育目標と教育要領との関連



2 本園の教育目標とテーマとの関連



### 3 家庭との連携

#### (1) 連携の意義

幼児期は人格形成のもっとも重要な時期だといわれている。幼児期は幼児を取りまくさまざまな環境からの刺激を受けて発達する。環境には人的環境、物的環境、社会的環境、かもしだす雰囲気など幼児をとりまくすべてのものであるが中でも人的環境の影響は大きいといわれている。

そこで幼児の望ましい成長発達を手助けするために、幼稚園と家庭がお互いの立場や生活などを理解し合い、同じ幼児を思うものとしての心のつながりを持ち、幼児のために力を合わせる必要がある。幸い幼稚園生活では父母と行事を通して触れ合う機会が多いので行事をうまく活用して父母との連携を深めることができる。

園行事を通して父母と教師が相互理解し信頼関係をきづいていく。絵本の読み聞かせなど父母の協力を得ることで幼児の成長発達をより望ましいものにしたい。また子育ての母親任せも見受けられるので父親の参加を促す工夫や先輩の親の子育ての話を書くことで参考になると思われる。

#### (2) 家庭との連携を図るための基本的な考え方

##### ① 幼児を中心に据えて

- ・ 幼児は家庭にとってかけがえのない存在である。幼児は安定した情緒の下で自己を発揮する。幼稚園では幼児にふさわしい生活が展開できるようにする。その大切な一人一人の幼児を中心に据えて幼稚園と家庭が力を合わせ幼児の生活を充実したものにしての発達を促す。
- ・ 家庭の協力を必要とする具体的な一つ一つの事項についてそれが幼児の発達にどのような意味をもつのかを幼稚園と家庭が一緒に考え合う。

##### ② 幼児の生活を充実したものに

〈幼児期とは〉

- ・ 幼児期の発達の特性を十分理解し遊びを中心とした幼児期にふさわしい生活が展開できるように教育を進める。また父母にも幼児期の特性や生活の中で学ぶことの大切さを伝える。人生の生涯にわたる発達という観点から幼児期の過ごし方を据えてみると外見上の発達をいくら急いでもその時期に必要な経験を十分にしていないと後の人間形成に問題を残す可能性がある。幼児期に興味関心を無視して知識・技能を教えこまれると小学校に入ってから子どもの学習意欲を損なうことになったり幼児期に友だちとのふれ合いを十分に経験する機会を得られなかったことが思春期になってから人間関係の上で様々な問題を引き起こす場合もある。

※幼児期に最も大切にしなければならないこと

- ・ 自ら興味や関心を抱いた活動に十分に取り組むことを通して自分で考えたり創意工夫できるようになる。
- ・ 大人への依存を基盤として失敗したり試行錯誤したりしながら成功感や充実感を体験すること

とにより、自分に対する自信や期待をもち、次第に自立へと向かっていく。

- ・具体的な生活経験を手がかりに、自分なりのイメージを形成し、それに基づいて物事を受け止めるようになる。
- ・友だちと関わる中で次第に相手の気持ちがわかるようになり、自己の発揮と抑制のバランスをとれるようになる。

文部省「幼稚園教育指導資料」第2集より

#### 幼稚園の役割

教師との信頼関係を基盤にしなが、遊びを中心として友だちと楽しく集団活動を送る場であり充実した集団生活を展開することにより幼児は生涯にわたる心身の健やかな発達の基礎となる様々な力を培う。

#### 家庭の役割

家族から十分な愛情や思いやりを受けて安心して過ごせる心の基地である。幼児は依存して安心して過ごせる家庭生活を通して、愛情や思いやりの大切さ、生活していくために必要な基本的な生活習慣などを自然に身につけ、精神的にもまた基本的な生活習慣の上でも次第に自立していく。

このように、幼稚園と家庭とは双方とも幼児の発達にとって重要な役割をになっているので双方がそれぞれの機能を十分に発揮することが大切である。ところが家庭にはそれぞれの事情があってその機能を十分に発揮できない場合もある。その様な場合は幼稚園側がその家庭の事情をよく理解しそれに応じたそれぞれの家庭との連携を考えお互いの立場を理解し合いそれぞれが自分の機能を発揮できるように相互に支え合う関係を生み出していく必要がある。

#### ③ 相互理解をはかりながら

〈幼児の育つ姿を通して〉

幼稚園と家庭の心のつながりは、一人一人の幼児の育つ姿に触れ、喜びをわかち合うことを通してより強められる。幼稚園は父母が安定した気持ちで幼児の成長を温かく見守っていきけるようにする。そのためには幼稚園生活の中で成長していく一人一人の幼児の姿を担当が十分把握し家庭訪問、個人面談、保育参観、その他父母が園に来る機会を通して父母に具体的に伝えていく。父母は教師の話聞くことにより幼児が楽しい園生活の様子やわが子の育ちを見て子育ての楽しさや喜びを味わうことで子育ての意欲にもつながる。幼稚園と家庭が一人一人の幼児の成長する姿を共に喜びながらその幼児のために何をどのようにすることが大切か一緒に考えていくことによって心のつながりにささえられた信頼関係が築かれる。

〈幼児のための連携〉

家庭にはそれぞれの生活や事情があり園行事や園への協力など楽しみにしている家庭もあれば出席や協力したくてもできない家庭もある。教師はそれぞれの家庭の事情を十分理解して協力してくれる家庭も協力できない家庭もどちらも大切に考え家庭に過度な負担をかけないようにする。保育参観など親が出席できない子どもへは子どもに寂しい思いをさせないように配慮する。また子どもの気持ちをくみとり出席や協力がむづかしい家庭との連携を大事にし、教師

のほうから電話をかけたり父母の時間にあわせて話合いの場をもつなどする。

〈多様な価値観を受け止める〉

- ・教師は保護者を指導するというのではなく謙虚な気持ちでその気持ちを十分に聞き、ともに学び育ち合うよう努める。

〈相手の立場にたって〉

- ・保育参観、個人面談などで父母の立場を尊重した話し方や相手が知りたいこと聞きたいことをわかりやすくたのしく伝える。
- ・わが子を安心して幼稚園に託すことができるように父母の気持ちを受け止めて丁寧に具体的に父母の心に届くように対応する。

〈園の教育方針の理解を図る〉

- ・いろいろな機会に幼稚園の教育方針や教育課程を家庭に理解してもらうように努める事が大切である。
- ・教師間で教育方針を共通理解することを前提にそれぞれの教師の個性や持ち味を大事にしながらから幼稚園全体として園の教育方針が実現されるよう日頃から話合い、お互いに力を合わせて進めていく。

文部省「幼稚園教育指導資料」第2集より

### (3) 本園の取り組み

#### ① 幼稚園のあり方を伝える（知らせる）

ア 父母が園行事に参加したくなるように手紙の書き方を工夫する。

イ 保育参観のもち方を工夫する。

- ・参観においては事前に園だよりや手紙で主な内容や日程などを知らせ保育参観当日は日案を配布し父母に保育参加の仕方を伝え幼稚園を理解してもらう。
- ・参観日に講演会を企画し父母が子育てについて改めて考える機会を作る。

#### ② 信頼関係を深める

ア 教師と子どもの信頼関係

- ・特に登園時は幼児の表情や動きからさまざまな思いを感じ取る。
- ・幼児と一緒に遊びの仲間に入り同じ行動を取ることで心の動きを知りまた友だちとの会話やつぶやきから幼児の気持ちを理解するなどさまざまな可能性を考え幼児理解に努める。

イ 教師間の信頼関係

- ・園行事の年間計画をたて教師間の共通理解を図り行事の実施・計画にあたっては家庭との連携を念頭に置き工夫をする。
- ・クラスの幼児と直接関わるのは担任であるが教師個々の持ち味を生かし園に通って来る子は全職員で見えていく。

ウ 父母と教師の信頼関係

- ・幼児のよい面や伸びる可能性に視点をあてて話し合い父母の不満や苦情は気を付けて様子を見プラスの方向に向ける努力をする。

- ・気軽に幼稚園へ足が運べるように保育参観は父母も一緒に参加できる保育参加へ見直し特に父親も参加したくなるような工夫をする。

③ 父母の協力を得る

ア 行事を効果的にスムーズに行うため役員や父母の協力を得る。

- ・おゆうぎ会などではアナウンス、幕係、準備係など役員や父母が積極的に協力しお遊戯会の父母の出し物も見られた。
- ・食べ物の好き嫌いをなくすためのおやつづくりの協力（お好み焼き）を得る。

イ 父母の人材を活用する

- ・保育参加や保育協力を勧め「絵本の読み聞かせ」「竹馬づくり」「竹馬や跳箱の補助」など実際に保育に携わってもらう。
- ・父母による読み聞かせの実践報告会（ミニ講話）で読み聞かせの体験談を語ってもらう。

④ 父母同士の交流の場を確保する。

- ・父母が気軽に話合えるような父母の座談会の場を設け子育ての意見交換をする。

⑤ 父母の声を聞く

- ・行事の後アンケートや話し合いによる父母の感想の場を設け次の行事や次年度の参考にする。

4 家庭との連携を深める工夫

(1) 家庭との連携を深める行事の年間計画

月 日	行 事 名	ね ら い	活 動 内 容
4月5日	入園前保護者会	・園長講話を通して父母へ幼児教育の大切さを理解してもらう	・担任紹介 ・園長講話 (子どもは親の後ろ姿を見て育つ)
4月9日	入 園 式	・入園を喜ぶ	・小学校の体育館で入園式に参加
4月15日 ～26日	家 庭 訪 問	・園児の家へ行き父母と親しくなる。	・家での子どものようすを聞く 「ひとりのできるかな」について
5月15日	保 育 参 加 と 親 子 作 業	・父母も一緒に好きな遊びを楽しむ。 ・親子で作業(草刈)園庭をきれいにする。	・好きな遊び 竹馬など親も自主的にかかわる ・親子、友だち、教師も一緒に草刈り作業をする (親は草刈園児は草を塵袋へ)
6月5日	父 親 参 観 日	・父親と一緒にゆうぎやゲームを楽しむ。 ・講演会を通して父親に子育てを理解してもらう。	・体育館で父親と一緒にゆうぎやゲームをする ・講演会 泊小学校校長比嘉先生 子どもの成長発達と父親の関わり
6月30日 7月7日	個 人 面 談	・子どもの長所短所を知り日々の教育に反映させる。	・家庭での様子を親から聞く ・園での様子を親に知らせる
7月21日	指人形づくり	・園生活が楽しめるように父母へ指人形を作ってもらう。	・三びきの子ぶた ・おおかみと七ひきの子やぎ ・あんぱんまん



月日	行事名	ねらい	活動内容
9月4日	夏休みの作品展 親子作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みの作品を展示しみんなで見える。</li> <li>草刈をして園庭をきれいにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各クラスで作品を展示する</li> <li>親子で草刈作業をする 親子、友だち、教師とかかわりながら作業する</li> </ul>
9月14日	祖父母参観	<ul style="list-style-type: none"> <li>おじいちゃん、おばあちゃんへ感謝の思いやりの心を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きな遊び 祖父母と一緒にあだんの葉で虫籠作りなど</li> <li>各クラスで楽しむ 自己紹介 うた ゆうぎ</li> </ul>
9月26日	運動会	<ul style="list-style-type: none"> <li>父母の前で元気よく頑張る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校のおにいちゃんおねえちゃんと一緒に頑張る。</li> </ul>
10月15日	保育参加 親子読書	<ul style="list-style-type: none"> <li>親子で絵本に親しみ絵本の大好きな子を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>父母の代表による読み聞かせ</li> <li>親子読書 (親子や友達の親とかかわり)</li> <li>父母による読み聞かせの実践報告</li> </ul>
11月15日	保育参観 父母の座談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>友だちや参観者と関わりながら好きな遊びを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>父母による竹馬作り</li> <li>子育ての座談会</li> </ul>
11月19日	誕生会 手作りおやつ	<ul style="list-style-type: none"> <li>手作りおやつで親のぬくもりを感じさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おこのみ焼き</li> </ul>
12月5日	おゆうぎ会	<ul style="list-style-type: none"> <li>父母の前で自信をもって発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>役員や父母の協力を得る。 当日の役割分担 (アナウンス、準備、片付け係外)</li> </ul>
12月14日	学級懇談会	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園生活を理解してもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事等を通しての子どもの育ちや冬休みの過ごし方について</li> </ul>

## (2) 家庭との連携を深める園行事の事例

### ① 教師と父母の相互理解を深める工夫をした事例

#### <家庭訪問>

- 1 職員会議をもった。
- 2 家庭訪問の心得をつくった。
  - ・父母との連携親密関係を築くために服装、身なりに気をつける。
  - ・明るい言葉で親和的、受容的な態度で望む。
  - ・時間の約束をして遅れないようにする。
  - ・父母の希望や意見をできるだけ聞く。

3 話の内容をきめておく

※話材を準備する

アンケート「一人のできるかな」からの抜粋

達成率

	内 容	男児	女児
①	幼稚園までの道順を覚えて通える。	76%	70%
②	手をあげて左右を見て安全に歩道をわたる。	76%	84%
③	名前を呼ばれたら「はい」とはっきり返事ができる。	94%	97%
④	交通信号の区別がわかる。	98%	98%
⑤	おしっこは完全にひとりでできる。	98%	100%
⑥	大便の後うまくふくことができる。	85%	91%
⑦	食前、排便後に手を洗う。	81%	86%
⑧	決まった時間（8～9時）にだいたいねる。	69%	64%
⑨	きまった時間にだいたい起きる。	77%	77%
⑩	好き嫌いなくたいていのものを食べる。	74%	66%
⑪	自分ひとりで他の人からせきたてられないでみな食べる	60%	59%
⑫	約束したことはだいたい守る。	84%	91%
⑬	身体のぐあいが悪いとき先生に伝える。	81%	89%
⑭	後かたづけがきちんとできる。	79%	86%
⑮	自分のことはできるだけ自分でするようにする。	92%	94%
⑯	物を大事にする。	66%	86%

4 家庭訪問の反省をして園の教育活動に生かす。

- ・家庭訪問の心得をつかったことで父母へ従来より親和的受容的に接することができた。
- ・事前に話材を準備したことで親との話合いがスムーズであった。

〈個人面談の工夫〉

1 時間 1人15分

2 個人面談への望む姿勢

- ・子どもの良いところを親に語らせる（子どもの自慢）
- ・悩みに対しては受容的に受けとめ必要に応じて時には教師も体験談を話す。
- ・気軽に話せるような雰囲気作りをする。

指示的や注意にならないように子育てについて聞きながら一緒に悩み教師と話して良かったと思えるようにする。

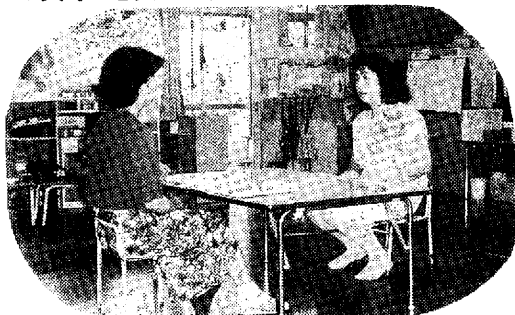
3 ねらい ・子どもの長所短所を知り日々の教育に反映させる。

・幼稚園での生活の様子や幼児期の教育についての理解を深める。

個人面談を効果的に行うために従来下記の1～6までに○字印をつけてもらっていたが本年度は子どもの家庭での様子について答えてもらった。

	従 来		本 年 度	比 較
1	あそびについて	1	家庭ではどんな遊びを好みますか (1)室内遊び( ) (2)戸外遊び( )	・家での遊びの内容が具体的に理解できる。
2	友人関係について	2	幼稚園に入ってからお友達ができましたか。 (1)はい (2)いいえ クラス名氏名を記入 ( )	・友だちがどこのクラスのどの子なのか親も知ることができる。
3	話を聞く態度について	3	家に帰って幼稚園のことについて話をしますか。 (1)はい (2)いいえ 内容( ) 園からのお手紙や先生からの伝言を伝えていますか。 (1)伝える (2)ときどき伝える (3)伝えない	・親子の話合いがなされているかどうか知ることができる。 ・子どもが親に伝言できているかどうか知ることができる。
4	かたづけについて	4	おもちゃで遊んだ後、後かたづけができますか。 (1)すすんでする (2)いわれたらやる (3)やらない	・家でのかたづけはどのようにしているか園での様子の参考になる。
5	食事について	5	食事について (1)好き嫌いがある (2)ない 偏食をなくすためにどのような努力をしていますか。 ( )	・野菜嫌いの子が多いので料理の作り方などどのような工夫がなされているか知ることができる。
		6	家庭でのあいさつをかわしていますか(朝のあいさつなど) (1)する (2)時々する (3)しない	・従来は項目の中になかったが家でのあいさつがかわされているか知ることができる。
6	その他	7	その他困っている事相談したい事 ( )	

※父母の意見が反映されて相互理解が図られ個々の幼児の実態に応じた指導ができるようになった。



## ② 人とかかわる力を身につける工夫をした事例

従来の保育参観では父母や祖父母は幼児が遊ぶようすを側で見るだけであったので保育に参加してもらい幼児とのふれ合いを増やした。つぎは父母の感想の一部である。



S君一緒に頑張ろうネ!!



重いけどほくたち力があるから平気



N子ちゃんは働きものだネ!!



作業の後の冷い麦茶のおいしかったこと

### 〈親子作業〉

- ・親子作業もよその子わが子と関係なく協力しあえて良かったです。よその子に声をかけるきっかけをつくらうと意識してしまうほどです。いろいろな子どもの反応が勉強になることもありました。
- ・草刈作業を5月と9月の二回お手伝いをして感じたことはどの子も気軽に声をかけてきて草を袋につめて一生懸命に運んでいく姿がとても嬉しかったです。
- ・親同士の交流や子どもたちの学校での様子を知ることなどプラス面もおおいに期待できると思います。

- ・親が一生懸命草刈りをしている。子どもたちがちり袋の中にその草を持ちくれないくらい入れて「こんなにたくさん草刈をしたよ」と意気揚々としていました。知らず知らずのうちにいろんな事を学んでいると思います。
- ・親子作業は子どもと共に汗を流し勤労の喜びを味わうことでとても良かったと思います。
- ・日頃いかに親子のふれ合いがないか考えさせられました。
- ・親子作業は父母の参加がとても多く園と家庭との連絡がいきとどいている事と思います。

#### 〈祖父母参観日〉

- ・ただ子どもたちの様子を参観するだけでなく一緒に何かをつくりあげる教えてもらおうというふれあいはずごく良いと思う。アダンの葉で風車を作ったとき皆は十の形だったがじいちゃんが作った風車は\*の形だったので「おじいちゃんはずごいなんでもつくれる上手なんだよ」と尊敬の気持ちが前より強くなったように思う。
- ・おじいちゃんおばあちゃんがアダンやソテツの葉で物を作っている。それを見ている子どもたちの目がとても輝いていました。
- ・K男は2～3日前からおじいちゃんにお願いして当日はとても楽しかったようで家に帰ってからおじいちゃんの話ばかりしていました。
- ・久しぶりにカゴをあんまり「ユイユイ」を踊ったりと楽しい一日が過ごせたようでおばあちゃんとA子は大喜びのようでした。
- ・住宅事情その他の事情で核家族が進む中祖父母とのスキンシップや一緒に遊ぶことは両方にとってとても良い心の栄養だと思います。これからも続けていってほしいと思います。

### ③ 野菜嫌いをなくすおやつ工夫をした事例

#### 〈お好み焼きレストランでの誕生パーティ〉

ピーマンなど野菜嫌いの子が多いのでどのようにしたらよいか評議員会で話し合った。その結果お母さん方の意見で誕生会のおやつで「おこのみやき」作りを実施した。

#### 1 「計画づくり」 10月25日

評議員会で園からの提案をする

- ・ピーマンなど野菜嫌いの子が多いのでどうすれば食べるようになるか話し合う。
- ・子どもたちが喜んで野菜を食べるには料理の工夫が必要であることを確認する。
- ・子どもたちが楽しみにしている誕生会で「おこのみやき」づくりをすることに決定。
- ・材料選びや必要な用具について話し合う。

必要な用具

おこのみやきの材料

ホットプレート

ピーマン 人参 たまねぎ キャベツ ながな 桜エビ ベーコン

さいばし

青のり 花がっお ソース 小麦粉 卵 油

- ・当日は時間の制限もあるしおいしく仕上げるため事前にお好み焼きの講習会を行う。

## 2 お好み焼き講習会 11月1日

- 野菜を細かく切る。
- お好み焼きのサイズはどのくらいがよいか実際に焼いてみる。
- 時間や材料についての再検討をする。



お好み焼きの講習会

## 3 事前準備

教師と父母の話合いで

- 園全体の活動としてひまわり組をレストランとする。
- レストランののれんを作る。
- ウェイトレスの頭かざりのを親と共同でつくる。

## 4 実施 11月19日（誕生パーティ）

- テーブルに花を置き雰囲気作りをする。
- テーブルで一緒にお好み焼きをいただきながら子どもの反応をみた。



いらっしゃいませどうぞ！



誕生パーティー

T どんな気持ち。  
F子 ほんとうのレストランみたい。  
T F子さんピーマン好き。  
F子 嫌い。  
T このお好み焼きの中にピーマンが入っていたけどどうだった。  
F子 おいしかった ピーマンの味しなかった。  
T ピーマンはね細かく切るとこういう味になるのよ どう！もっと食べたい。  
F子 食べたい。  
F子はおかわりをして食べた。そしてお母さんに家でもお好み焼きを作ってもらおうといていた。

#### ④ 幼稚園教育への理解を深める工夫をした事例

##### 〈保育参観に父親を参加させる工夫した結果〉

###### 6月の保育参観

- ・父親参観日を設けることで父親が気軽に園へ足が運べるようにする。  
参観後「幼児期における父親のかかわり方」としての講演会を実施したので子育ての大切さを理解し子育てへの関心が高まった。

###### 5月・9月の参観

- ・参観の中に親子作業を行うことで父親の参加が増えてきた。

###### 10月の親子読書

- ・「父母による読み聞かせ」の各クラスの代表者をできるだけ父親にお願いするということで2クラスが実現した。
- ・読み聞かせの実践報告会の講師をお父さんに依頼し実施したことによって盛り上がりが見られた。

###### 11月の保育参加

- ・できるだけお父さん方に参加してもらおうとよびかけをした。竹馬作りをすることによって多くの父親の参加が見られた。参観後職員室でお父さん方を交えての子育ての父母座談会は30名程参加し和気合々として深まりが見られた。

##### 〈10月の保育参加親子読書〉

子どもは本来本が好きである。幼稚園においても降園前などに担任が子どもたちに絵本の読み聞かせをする。絵本は不思議な力を持っている。絵本の魅力にとりつかれて自然に集中力も養われ思考力も高まる。当園では毎年6月より絵本貸し出しを毎週一回行い親子読書をすすめている。家庭における親の読み聞かせは親子のふれ合いで子どもの情緒の安定にもつながる。しかしながらなかには子どもが字が読めるようになったからとか親の忙しさにかまけて家でなか絵本を読んでもらえない子もいる。一方では読み聞かせにとっても関心があり毎日読み聞かせを実行している家庭もある。このように親の関心や態度が子どもの本好きにするかぎを握っている。

そこで本園では家庭で読み聞かせの実践をつんでいる人達の力を借りながらどの子も絵本が大好きな子になるようにとの願いを込めて親子読書を実施した。

## 1 職員間の共通理解を図る

(1) 親子読書を進めるために必要と思われる事項について職員間で話し合う。

- ① 参観日の日時について (指導案参照) 16ページ
- ② ねらいについて (指導案参照) //
- ③ 当日の日程について (指導案参照) //
- ④ 保護者の参加の仕方について (指導案参照) //
- ⑤ 親が来れない子に対する教師の配慮や留意点について  
親が来れない子に対する配慮は個々の幼児の家庭の実態を担当がしっかり把握し子どもが寂しい思いや不安を感じさせないように教師の適切な言葉を工夫する。
- ⑥ 環境の工夫について
  - ・担当が子どもたちと一緒に話し合いながら場の設定など各クラスで環境を工夫する。
- ⑦ 父母による読み聞かせの協力依頼について
  - ・各クラスより1人～2人父母による読み聞かせの実践をしてもらえそうな人を人選する。人選にあたってはなるべくお父さんを考える。
  - ・父母がクラスの子どもたち全員の中でいきなり読み聞かせをするのは抵抗があるかも知れない。親子読書の事前活動として好きな遊びの時間(9:00～10:00)に幼稚園で読み聞かせができる方を募り親が幼稚園へ気軽に足が運べるようにする。

## 2 父母の理解と協力を得る

(1) 評議員と話し合いをする

- ・親子読書当日の日程と内容について
- ・湯茶の準備について

(2) 協力保育(読み聞かせのボランティア)を募集する。

- ・読み聞かせの楽しさが子どもにも親にも浸透するよう父母に呼びかけをして時間が作れる父母を募り読み聞かせの協力をしてもらおう(9時から10時)

(3) 父母による実践報告(ミニ講話)

- ・父母の中から読み聞かせの実践をしている人を講師に実践報告をもらおう。

## 3 園だよりやお手紙で知らせなるべく多くの父母が参加できるように呼びかけをする。

(1) 親子読書の事前のお知らせ

- ① 10月の園便り(9月30日)
- ② 絵本の読み聞かせ(協力保育)についてお願い(10月1日)
  - ・読み聞かせのボランティアを募集する(10月1日)
- ③ 10月の参観親子読書のお知らせ(10月12日)
- ④ 親子読書父母の参加の仕方(10月15日)
- ⑤ 親子読書に関する資料配布(10月15日)
  - ・幼稚園生にとって読み聞かせ(親子読書)に勝る読書なし
  - ・おもいで(園長の詩)
  - ・読書月間にちなんで(当山小学校テレビ放送資料)



(2) 事後のお知らせ

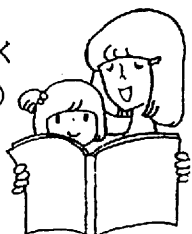
- ① 親子読書のお礼（10月20日）
- ② アンケート調査や父母の感想を聞く  
（10月20日）

4 親子読書指導案を作成して実施

(1) 指導案

平成5年10月15日

- ねらい
- ・親子で絵本に親しみ絵本の大好きな子を育てる。
  - ・読み聞かせの実践報告会を通して親子読書の啓発をする。



読み聞かせのボランティア募集中

	_____くみ
	園児名 _____
1 読み聞かせできる	月 _____ 日 _____ 曜日 _____
2 時 間	9:00~10:00
3 出席される方の名前	_____
4 園児との関係	_____

時 間	子どもの活動	保護者の参加の仕方	指導上の留意点
8:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>○登園                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ</li> <li>・所持品の始末</li> </ul> </li> <li>○朝の会（各教室）                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席調べ</li> <li>・話合い （本日の活動について）</li> </ul> </li> <li>○飼育動物の世話</li> <li>○菊の水やり</li> <li>○好きな遊びをする。 （園庭及び各教室） 指人形 絵本 一輪車 とび箱 竹馬 長なわ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所持品の始末ができて いるか確認する。 かばん、帽子、出席ノ ートを出しているか。</li> <li>・子どもと一緒に遊ぶ 指人形 絵本を見る。 絵本の読み聞かせ とび箱 竹馬の補助 なが縄</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のあいさつを交わしながら 体調を把握する。</li> <li>・身の回りの始末がまだ不十分 な子は必要に応じて援助する。</li> <li>・「お家の人に来れない時はど うしたらよいか」について皆 で話し合い不安を取り除く。</li> <li>・親子読書について話し合い期待 を持たせる。</li> <li>・菊の水やりをするよう声かけ をする。</li> <li>・自分なりの課題を見つけて取 り組んでいる子を認め励まし 応援したりと自信を持たせる。</li> </ul>
9:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>○片付け、手洗い、うがい 親子読書の準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くつやぞうりは靴箱に しまっているか確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで片付けている子を認め てあげながら一緒にきれいに する。</li> </ul>
9:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集合（各教室） 父母代表の読み聞かせ 親子読書 （各教室及びベランダ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お子さんの様子をご覧 下さい。</li> <li>・親子で絵本に親しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の扱い方について確認す る。</li> <li>・読んだら元に戻す。 一冊ずつ取って見る。</li> <li>・絵本の楽しさを十分味わえる ように環境を整える。</li> <li>・父母に放送で知らせる。 （湯茶が準備されていることと 実践報告会について）</li> <li>・講師（報告者）の紹介をする。</li> <li>・質疑に対する応答は報告者に お願いする。</li> </ul>
10:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>○おやつ準備 あさがお組の子移動 男児 ひまわり 女児 たんぼぼ 各クラスの活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あさがお組へ移動 ・麦茶をどうぞ！</li> <li>○ミニ講話（10:30~11:15） ・父母による読み聞か せの実践報告会 ・質疑・応答</li> </ul>	

## (2) 子どもの様子

### ① 親子読書を明日に控えた教師と子どもの会話から

〈たんぼ組のようす〉

おやつ時間(10:45) ミルクを飲みながら

T 「明日はお父さんお母さんが幼稚園に来て一緒に絵本読みをする日だね。

それでたんぼ組を図書館にしたいなと思っているんだけどみんな手伝ってくれるかな」

C 「うん手伝うよ。」と5~6人

T 「わーよかった!」先生テーブル置いたりごさを敷いたり一人で大変だなーと思っていたのよ よかった お願いね 後で一緒にやろうね。」

C 「おもしろそう!」ぼくも手伝うよ。」と口々にいう。

T 「わーこんなにたくさん手伝ってくれるの!うれしいなー。」

おやつの後

各コーナーに子どもたちが机、椅子を並べる。

ままごとコーナーから布を持ってきてテーブルカバーにする子、生け花、植木鉢を飾る子カーペットやごさを敷く子、絵本をテーブルに並べる子ほとんど全員が生き生きと関わっている。準備が整い終わると好きなコーナーで各々絵本を読み始める。

帰りの会で

S男: 「ぼく話すのがない。ただ、明日が楽しみだけ」

S男の一言でその子が翌日の活動に期待している姿が伺えた。全員で再確認をし翌日の園生活も楽しいことを約束しながら降園した。

当日の帰りの会で

楽しかったことを発表したけどほとんどの子が楽しかった事を話してくれた

### ② ひまわり組のようす

「ともだちほしいなおおかみくん」は子どもたちが大好きなお話である。ひまわりくみでは子どもたちが好きな遊びの時間に子どもたちがカセットテープをかけながら指人形でともだちほしいなおおかみくんを演じている。偶然とはいえひまわり組で読み聞かせをしてくれたお父さんが選んだ本が「ともだちほしいなおおかみくん」であった。子どもたちは大喜びM君のお父さんの読み聞かせにどの子も真剣そうに聞いていた。

### ③ あさがお組のようす

親子読書に参加しての感想の中から(お父さんが親子読書に参加した)原文のまま

おとうさんのことば「ぼくにあわせて読みやすい本を選んでくれるんだよ」

子どものことば 「だってたくさん読んでほしかったの」

いつもはなかなか読んでもらえない父親にたくさん読んでもらって満足しているようでした。

読んでもらった本の題名を母親に話したりうれしかったようすがわかりました。

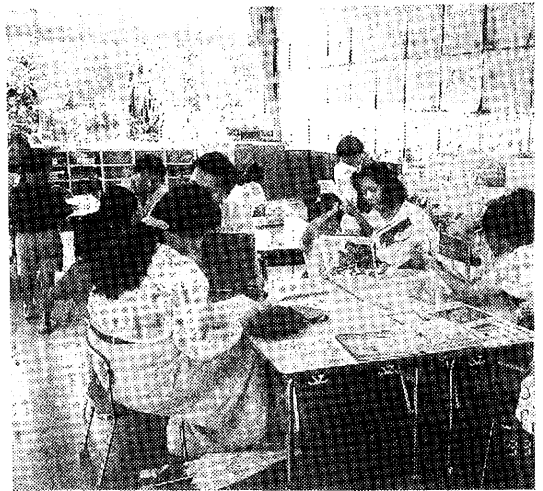
## 5 「親子読書」についての父母の感想（原文のまま）

### 〈充実している子どもたち父母の様子が伺える〉

- ・ここ数カ月読み聞かせをしていなかったのが改めて読み聞かせの大切さがわかりました。
- ・子どもたちが生き生き聞く態度、親子の雰囲気になごやかでよかった
- ・家ではときどき短時間しか読んであげられないのでとてもいい試みだなと思った。
- ・初めて保育参観をして子どもが生き生きと生活している様子を見て安心しました。親子読書については目を輝かせて聞いている子どもを見て素晴らしい企画だと思います。
- ・多くの子どもたちが父母の読む本に夢中で（耳を傾けて）何か質問をしようと一生懸命ですごく輝いている目が印象的で良かったです。
- ・自分のお母さんがお友だちにも本を読んであげているという事でとてもうれしかったようです。
- ・どの子どもにもこにこえがおでとてもうれしそうでした。とてもよかったと思います。
- ・お友達のお父さんに読み聞かせをやってもらい日頃体験できなかったことができて子どもたちもとても喜んで良かったと思う。
- ・家での読み聞かせでも喜んでくれるけど園へ来てくれたということでそこの読み聞かせは前よりも本好きになり親子のふれ合いができた喜んでます。
- ・家での読み聞かせよりも母親が園まで来てくれたという事でより喜んでくれたので歩いて来たかがありました。
- ・子どもを園での読み聞かせでいろんな方の参加で園内もなごやかな雰囲気になっているのを見て、素晴らしいことだなーと実感しました。

### 〈参加できなかった父母の感想〉

- ・参加できなかったのでその場はよくわかりませんがみんなで楽しく本読みができておもしろかったと子どもたちが喜んだ表情で話してくれました。参加できなかったのが残念です。
- ・親子読書の時間に仕事で間に合わず娘に寂しい思いをさせてしまいました。でもいつも読んでもらっているお母さんにならなくてお友達のお母さんに読んでもらったということで良かったと話していました。



こんどはどの絵本にしようかな？

## 6 「絵本の読み聞かせ実践報告」を聞いて父母の感想

### 〈子育て（読み聞かせ）を頑張りたい〉

- 本当にうーんとうなずかばかりでした。無理なく自然で子育てをしていっているなと思いました。とても良かったです。又ぜひいろいろお聞きしたいです。
- 15年間も毎日読み聞かせをした事を聞き感心しました。わが子の時間の許す限り読み聞かせをしていこうと夫婦で話し合い、いつまでつづくかわかりませんが頑張っていきたいと思っています。
- 短時間で大変濃度の高い話をお聞かせ頂きましてほんとうにありがとうございました。素晴らしい子育て観の瀬長さんへ一歩でもちかづきたいと思いつつその後早速いくつかを実行に移し役たてさせて頂いています。
- あらためて本の「読み聞かせ」は大切な事を知りました。聞いて何日かはせせと読んであげられるのですがつつい忙しかったり面倒になったりでおろそかになりがちですが「おかあさん本読んで」と言われたらすぐ「はい」と言って読んであげられるようになりたいです。
- 具体的でわかりやすい話でそれを身近で実行していると思うと私も本を通して子どもとむかいあってみたいと考えました。
- 今まで時々しか本を読んでいませんでしたが保育参観の日から毎日本を読んでいきます。食事の後に1冊から2冊くらいですけど毎日続けて読み聞かせをしたいと思っています。

### 〈お話しけなくて残念〉

- 私は遅れていきましたので聞いてないですが皆さんの話を聞いてとてもいいようです。

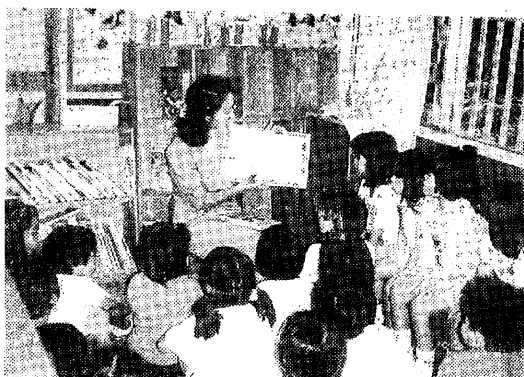


絵本の読み聞かせの実践報告（ミニ講話）

7 読み聞かせのボランティアを経験しての感想（延べ14人）の中から

- ・参加する前はいろいろ心配しましたが、みんなお行儀よく静かに聞いてくれましたので参加してよかったと思いました。また機会があったら参加したいと思います。
- ・楽しく参加することができました。読んでいるうちに自分が楽しくなっていました。
- ・親が読み聞かせのボランティアを経験した子どものようにすとして参加前から楽しみにしており「お友だち集めてくるからね」と親に気づかっていました。参加後は満足顔で「お母さんあしたの参観日も必ず来てね」との事でした。ちょっと照れていたのが印象的でした。

読み聞かせのボランティア



絵本の部屋にて



ひまわり組にて真剣に聞いている子どもたち

8 「親子読書」実践を通して

- (1) 教師が子どもの実態を把握し個々の子どもにあった指導援助の工夫をすることにより教師と父母の信頼関係が深まった。
- (2) 読み聞かせの実践報告は地域の人材活用とあって聞く側も講師を身近に感じまた話の内容も具体的でわかりやすかったという声が多かった。そして自分も努力すればできそうだという父母の前向きな姿勢が伺えた。
- (3) 教師だけではとうてい実行不可能なものでも読み聞かせの協力保育で可能になり幼児がこんなにも生き生きとしてくるのかと改めてその効果の大きさを知らされた。
- (4) 父母も協力保育や保育参観などを通して子育ての方向性を自ら見つけ出している姿がちょっとした話合いの場やアンケートなどから伺えた。

## IV 研究の成果と今後の課題

### 1 研究の成果

- (1) 父母を園行事に計画参加してもらうことで幼稚園教育について今まで以上に理解を示し楽しい園行事を行うことができた。
- (2) 父母と教師がお互いの立場を理解し相互理解を図りながら幼児の長所を伸ばす指導をすることができた。
- (3) 野菜嫌いな子をなくす工夫として誕生パーティお好み焼きレストランを企画し食べることによって嫌いな野菜も好きになったと話す子が見られた。
- (4) 親も園へ協力することで例えば読み聞かせの読み方の工夫をしたり料理の講習会さらにおゆうぎ会などで父母の出し物の練習（指人形）などを通して共に育ち合うことへの喜びの姿が見られた。
- (5) 父母が幼稚園教育にこれまで以上に関心を示し幼稚園への協力（作業、絵本の読み聞かせ、指人形作りおやつづくり）をすることで子どもの喜ぶ姿や育ちを見て自分たちが役に立っていることを実感し、親としての充実感が見られた
- (6) 保育参観で父親が幼稚園へ参加しやすい工夫をしたことで多くの父親が出席し今まで以上の深まりが見られた
- (7) 園行事の実施後アンケート調査や父母の感想をとることにより次の行事への見通しをたてることができた。

### 2 今後の課題

- (1) 行事の見直しや工夫をすることによって幼児が今まで以上に充実した幼稚園生活をおくるようになってきたが今後も日常研修の中で連携の工夫をし、さらに深めていきたい。
- (2) 家庭的に恵まれない子や親の多忙さでなかなかかまってやれない子の親との関わりをもつ工夫をしていきたい。
- (3) 子どもたちが喜んで登園し一日一日が充実した遊びができるように日常生活の中でごく自然な形で父母との連携をさらに深めていきたい。

〈引用文献〉

- 『幼稚園教育指導資料第2集 家庭との連携を図るために』 文部省 世界文化社 1992年7月
- 『幼稚園教育指導書』 増補版文部省 フレーベル館 1989年12月
- 『幼稚園における家庭・地域等連携事業についての実践的調査研究』 沖縄県教育委員会 1993年1月
- 『幼稚園時報』 全国国公立幼稚園長会 幼児期にふさわしい生活 1989年6月
- 家庭と共に歩む幼稚園 1992年1月
- 信頼関係を築く 1992年4月
- 『保育実践用語辞典』 西久保礼造 ぎょうせい